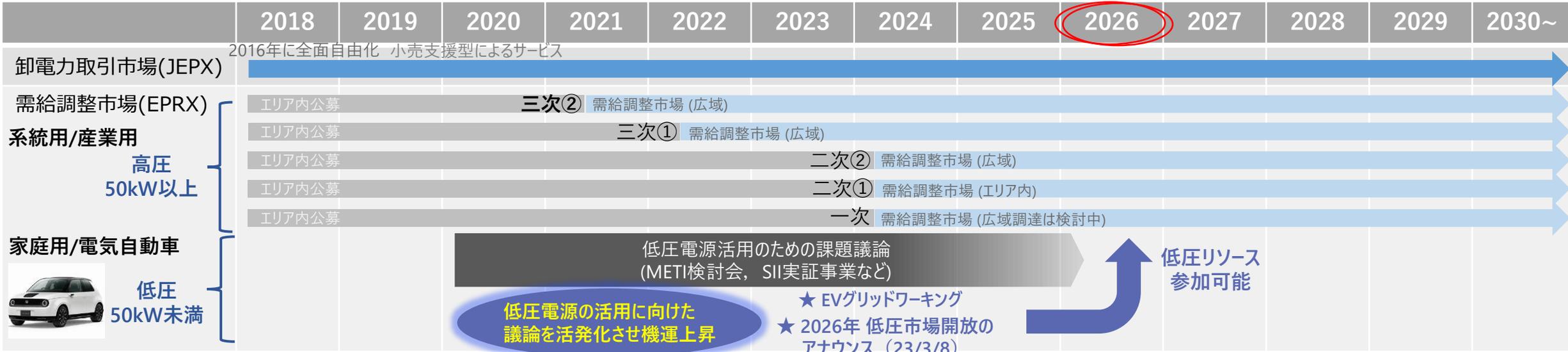


日本自動車工業会  
**第8回 DRready勉強会**

2026年3月19日

# EVグリッドに関するこれまでの活動



## '23.5~'24.2 経産省EVグリッドWG

EVと電力システムの統合の検討について

- EVと電力システムとの統合を考えるにあたっては、EVという財を様々な観点から捉え、社会の全体最適を実現していくことが重要であり、EVの高付加価値化による産業競争力強化やエネルギーの安定・効率的な供給の共存に向けて、産業政策、エネルギー政策両面からの検討が必要。
- そのためには、多様な業種、プレイヤーの関与が不可欠である一方で、各社が自社の立場から踏み出さなければ、将来像への到達シナリオは描けない。

関連業界が垣根を越えて、議論をする場  
『EVグリッドワーキンググループ』の開催

＜検討項目＞

- 将来シナリオの検討
- 検討すべき課題の抽出と特定
- 最適解（課題を解決し得る仕組みや機会を実現し得る仕組み）の検討

＜事務局＞  
資源エネルギー庁電力・ガス事業部 電力産業・市場室  
資源エネルギー庁省エネルギー・新エネルギー部 新エネルギーシステム課  
製造産業局 自動車課  
産業技術環境局 国際電気標準課  
三菱総合研究所

## '24.3 EVグリッドWGまとめ



EV活用した需要調整可能な環境への移行を検討しマイルストーンと課題が整理された

(出所) 2024年2月29日 とりまとめ EVグリッドワーキンググループ

## '24.9~26.3 EVグリッド連携・活用検討会 (EVグリッドWGを継承)

SRN 一般社団法人 スマートレジリエンスネットワーク

OEM4社、一般送配電事業者、RA事業者間で協議  
~電力事業者と車両のデータ連携に関する協議  
~ユースケースに応じた課題、対応を協議  
~JEMAとの接続

目標をもった  
**OEM指針・**  
**電力事業者との**  
**データ連携の**  
**界面設計・**  
**代表的な**  
**ユースケース検討**  
**が必要**

# 自工会における議論体制

## ■ 目的及び達成すべき活動内容

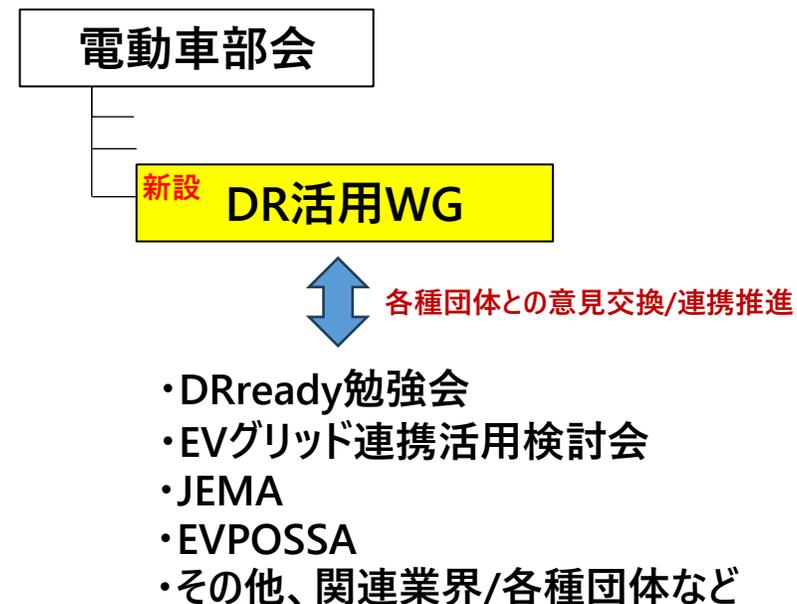
家庭用蓄電池やハイブリッド給湯機等の活用と同様に、EV車両搭載電池のDRready活用に向けた技術的な課題解決を図るとともに、業界内外連携を進めることを目的とする。

家庭用蓄電池及びハイブリッド給湯機等のDRready要件案や、諸外国におけるEV充電・充放電のDRに関する制度の検討状況を踏まえ、車両情報をどのように要件に合わせていくか、送配電事業者とのデータやりとり界面に関する技術的検討を行い、DRready勉強会に報告する。さらに、DRready対応において、各事業者を経由する通信・情報処理におけるセキュリティにおいて、車両側でどのような要件が必要となるのかを把握し、自工会内で共有する。

## ■ 達成Goal

EVの電力グリッド連携に関し、特に車両領域についてイニシアチブを発揮し、消費者・社会に利する要件を、関連業界/各種団体と協調し定めていくこと

## ■ 体制



# 今後の運営・日程

✓ 適宜関連業界/各種団体とも連携しながら、DRready勉強会にて状況報告する。

	25年度	26年度			
	4 Q	1 Q	2 Q	3 Q	4 Q
DRready勉強会・ 関連業界/各種団体 との打合せ	DRready勉強会 (第8回)▼				
JAMA DR活用WG での議論内容 (案)	<p>連携↑</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>WG立ち上げ (キックオフ)</li> </ul>	<p>↑</p> <p><b>DR対応に向けた現状 の課題整理 (各社で認識合せ)</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>自家用車、商用車の各領域に対して、DRのユースケースを分類し、それぞれのケースに対する今抱えている課題を抽出</li> </ul>	<p>↑</p> <p><b>EV充電/充放電サービスの在り方検討</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>足元での取組みの方向性や、それに必要な機能の整理</li> </ul>	<p>↑</p> <p><b>EV充電/充放電サービスの在り方検討</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>将来的に目指す方向性や、それに必要な機能の整理</li> </ul>	<p>↑</p> <p><b>1年間の活動のまとめ</b></p>